

日銀の視点

赴任時から楽しみにしていたことに、当地でのスポーツ観戦と音楽鑑賞がある。そのうち、スポーツについては先日、サッカー水戸ホーリーホークの試合を初観戦した。シーズン開幕戦、強風が冷たかったものの晴れて遠く筑波山も見える中、多数の観客が感染防止策を取りつつ選手を後押ししており、素晴らしい雰囲気であった。試合は終了間際の失点で2対3と悔しい敗戦となったが、若手主体の選

日銀水戸事務所長 上野 淳

手たちの勢いや勝利に向けた強い気持ちが残分に感じられ、私も活力を頂いた。今後、鹿島アントラーズの試合にも、足を運んでみたい。バスケットボールの茨城ロボッツの試合も、記念すべき

しみである。加えて、昨年コロナ禍で中止になった水戸でのオールスターゲームの来年開催が決まったことや、谷口大智選手がロボッツの選手として初めて日本代表に選出されたことも明るい話題だ。

広上淳一氏指揮の下、期待に違わぬ素晴らしい演奏。フィナーレの人間賛歌的な壮麗な響きを今でも思い出す。その余韻で、前向きな、肯定的な気持ちでホールを後にした。演奏者側も、コロナ禍において、

人々は、苦しいときこそ、限界に挑戦する選手の姿や心を揺さぶる音楽から、力を与えられたり慰められたりする。ことを実感したのではないか。このことは、目下の戦渦に苦しむ海外の方々にとっても、すぐに享受することは容易ではないが、同じであろう。県内にはここで触れたもの以外にも同様の力を持つスポーツ、文化活動が多くあるはずだ。これらが今後も大切に育まれ、町の活性化などによる経済効果に加え、県民の心のさらなる豊かさ、活力につながることを期待したい。

スポーツ、音楽の力実感

B1昇格後の初ホームゲームを含め、数回観戦した。こちらも、強豪相手に善戦するなど、選手の気持ち十分に伝わってくる。昇格直後の地元チームの成長を見守り、後押しできると、今だからこそその楽

さらに、音楽好きの私にとって、世界的指揮者・小澤征爾氏が深く関与している水戸芸術館と水戸室内管弦楽団は、昔から行ってみたいと思っていた存在であった。昨年10月、その念願がかなった。

演奏だったのではないか。コロナ禍の特に最初のころは「不要不急」の活動の停止が強く求められる中、多くのスポーツ界、音楽界の方々が、自身の活動の意義を自問し悩まされていた。しかしその後、

（今回は4月9日掲載）